

経営会議の内容

件 名	第 2 次大和市歯及び口腔の健康づくり推進計画について
所 管 部	健康福祉部
日時・場所	平成30年11月19日（月）11：25 ～ 12：00 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、健康づくり推進課長
提 出 理 由	第 2 次大和市歯及び口腔の健康づくり推進計画を策定するにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・ 計画に記載のある新規取組として在宅歯科医療連携室の設置が挙げられているがメンバー構成は。また実際の相談者はどの程度いるのか。 （所管部）在宅歯科医療連携室とは、市の歯科医師会が、県の歯科医師会の委託を受けて実施している事業である。メンバーは歯科衛生士と事務局で対応している。主には訪問歯科診療を行うクリニックの紹介、また、歯科衛生士が直接訪問などを行っている場合もある。実際の相談者の数は把握していないが、市歯科医師会からは、事業を拡大していきたいとの意向も聞いている。 ・ 計画の中に、顎関節症に関する要素を盛り込んだらどうか。 （所管部）検討していきたい。 ・ 学齢期の矯正歯科に関する内容を計画に記載することを検討した経過はあるか。 （所管部）これまで検討した経過はないが、歯科医にも意見を聴取しながら策定を進めている計画であるため、改めて検討してみたい。 ・ 計画には、義歯やブリッジを入れずに放置することのリスクについて記述がある一方、インプラントに関する記述がないように見受けられるが、どのような扱いになるか。 （所管部）計画では、義歯やインプラントなどの別に関わらず、あくまで歯を失った状態で放置することのリスクを記載している。 ・ 設定している活動指標は、前計画策定時から必ずしも数字が改善しているものだけではない。数字の取り方も単年度実績値では適切でないものもあると思う。よく検討してほしい。 ・ 基本目標に「口腔機能の獲得及び維持・向上」とあり、食育との関連も深いと思われる。小さいお子さんにとっては、歯の問題と食べることは同時に教えていかなければならない問題と思うので、食育の内容が入っていてもよいかもしれない。 ・ 高齢になると唾液の量が減り、様々な疾患の原因になることがある。また、高血圧の薬にも口渇を進める類のものがあるため、計画を通じて市医師会などとも連携し、意識啓発等に努めてほしい。 （所管部）歯科医師の意見もいただきながら検討していきたい。 ・ う蝕のない子どもの割合は増加傾向にあるが、学校では、子どもたち全体に口腔の健康づくりが習慣化するまでは至っていない。また、全体の割合は上がっている一方で口腔崩壊の子どもがいるなど、家庭内の意識の差が広がってきているように感じる。これらを課題ととらえ、今後、子どもたち全体に対して何か口腔の健康づくりにつながる取組ができないか、検討を進めていきたい。

	・口腔の健康づくりについて、産官学にかかわる取組はあるか。 （所管部）青山学院大学との包括連携協定の一環として、高齢の方の咀嚼に関する研究について、フィールドの提供をするなど連携を進めているところである。 ・一例として、永久歯が生えそろう時期の小学生にターゲットを絞って親子健診を行うなど、意識付けができるような目玉事業が実現できれば望ましい。
会議結果	案のとおり、進めていく。